

「伊勢崎署占拠・多喜二奪還事件資料集」訂正・追補1（2008年9月7日）

2ページ、資料の目次及び資料の分類について、一部次のように変更します。

「⑤事件叙述・研究資料（B）」に分類した「4石原証明『伊勢崎事件』（『群馬県百科事典』所収）」と「14石原証明『伊勢崎事件』（『群馬新百科事典』）」を「④事件叙述・研究資料（A）」に変更します。

2ページの「⑦事件関係者関連資料（文献の紹介のみ）」に、次の資料を加えます。

12 上毛大衆社『上毛大衆』1号～11号（1928年12月～1930年1月、群馬県立図書館）  
13 菊池盛男家文書目録（伊勢崎市史編さん室『伊勢崎市史資料所在目録、北・南・茂呂II』、1986年）

14 菊池光好家文書目録（群馬県立文書館『群馬県史収集複製資料目録第4集』、1997年）

15 村山知義『演劇的自叙伝』第1巻～第4巻（1970年～1977年）

以下の部分を訂正・変更します。

45ページ上段後ろから2行目の途中、「くわけです。」の次に以下の文を挿入して下さい。

さらに、東京朝日新聞群馬版では「全協の魔手」（1931年9月9日）と指弾されていますが、これは労働運動とも関わっていたことを想定させます。

47ページ上段の2行目の「坂下」を「坂内」に訂正します。

48ページ下段の諸機関に「伊勢崎市教育委員会文化財保護課」を追加して下さい。

「伊勢崎署占拠・多喜二奪還事件資料集」訂正・追補2（2008年11月24日）

1ページ、資料の目次及び①事件当時の報道・記録資料について、次のように変更します。

資料3及び資料4の上毛新聞及び東京朝日新聞の1931年9月8日夕刊を資料2及び資料3とし、それらは「9月8日夕刊（9月7日夕方発行）」とします。それに伴い、資料2の上毛新聞9月8日朝刊を資料4とします。

【理由】1943（昭和18）年10月10日まで夕刊は、翌日の日付で発行されていました。つまり、同じ日付の朝刊・夕刊の場合、夕刊が前日に発行されていたこととなります。下図を参照して下さい。「夕刊上毛新聞」の題字の下に発行が「九月七日」とありますが、新聞上部には「九月八日」とあります。

昭和18年（1943）				
11	11	10	6	1
19	1	11		

「軍神を讃える和歌」の応募が3075あった  
 県選出代議士総動員米英撃滅大演説会  
 （社告）夕刊の発行日は翌日付だったが協会の申し合わせで11日から当日付に  
 新聞の併読は不可能になる  
 大東亜新聞協議会が誕生。日本新聞協会は解散

（『上毛新聞百年史』の年表から、1987年）

日八月九年六和皇 (可認物便郵種三第)

### ナツプ作家数名 伊勢崎署に検束される

無産黨有志五権の講演会を前に  
署では理由を厳秘

代表者が  
伊勢崎署に出頭  
解放方を陳情す

大島氏の策謀  
無産黨候補の  
舌刺目割

日八月九年六和皇 (西八てせ合刊夕朝)

### 上毛新聞

何處迄も事實無根で  
突張り通せと激励  
王正廷、張學良兩氏に助言す  
蔣介石氏の態度強硬

三山煎餅  
小倉羊羹  
風景菓子  
其他各種  
堂

①事件当時の報道・記録資料について、「読売新聞1931年9月7日朝刊」に載った記事が見つかったので追加します。

読売新聞のマイクロフィルムを群馬県立図書館で調査した結果、下記の記事が見つかりました。まだ、事件の途中で記事が作成されたものでしょう。検束されたのが「高崎署」になつていたり、検束者の齋藤力が「齋藤勤」、菊池敏清が「菊池利蔵」なつています。しかし、講師で来県し、検束された「村山知義・小林多喜二・中野重治」は正確に報道していません。なお「東京日日新聞」（毎日新聞）には当事件に関する報道記事はありませんでした。

②事件当事者の記録・記憶資料に村山知義「あとがき」（『忍びの者』、1962年）、それを再録した『演劇的自叙伝4』（1977年）の一節を追加します。

代のような習慣も残っていた。また、前橋市の留置場などは（そこへ小林多喜二、中野重治と一しょに入れられたことがあったが）直径二寸あまりの丸太の格子で、伝馬町の大牢をしのぼせる造りだった。『旦那』とか『お役人さん』とかいう呼び方も、伝統を感じさせた。

②事件当事者の記録・記憶資料に須永好『須永好日記』（1968年）の一節「昭和6年9月8日」を追加します。

九月八日

午前中は堀川秀吉選挙事務所で話し、午後は県連常任執行委員会に出席し、石井繁丸君と尾島に来る途中伊勢崎に下車して小林邦作君等が検束されているので、警察に行き貰い下げ、陳情し石井君と共に尾島に来て宝泉、鳥之郷、沢野、九合の演説会に出る。

## 辯士検束され 講演會お流れ

村山氏等のプロ作家連

【群馬電】六日午後七時伊勢崎町公共館に開催の同町「無青」有志の文藝講演會に出席のため同六時ごろ同町に着いた村山知義、小林多喜二、中野重治外数名のプロ作家は「無青」伊勢崎支部の齋藤勤、菊池利蔵等と共に講演會場へ赴く途中突如高崎署に検束された。急を聞いて同署に駆けつけた同支部の菊池盛男外数名も急ち検束されたので同講演會は辯士を失ひ開催不能に陥つた一方藤村高謙では係官を出張せしめて検束者を嚴重取調へて居る。

⑤事件叙述・研究資料（B）に山岸一章『革命と青春』（1970年）の「群馬の福田政勝―上海事変反戦デモの先頭に」の一節を追加します。

一九三二年（昭和六年）九月六日、伊勢崎の社会民衆党を中心とした文化団体は、プロレタリア文学の作家小林多喜二、同劇作家村山知義など数名を東京から招いて、同市の共栄館で文芸講演会を計画しました。伊勢崎署は開会前に講師全員と主催者のほとんどを検束して中止させようとした。しかし、小林多喜二らの話を聞こうとして集まった超満員の約二百名の聴衆は、開会の一時をとくに過ぎて五時、六時を過ぎて誰も誰一人帰ろうとはせず、しだいに殺気立ってきました。そこへ福田政勝、堤源寿、坂内一登司など約三百名が各地からぞくぞくとかけつけて合流し、約五百名が、「講師を奪還しろ！」と伊勢崎署に押しよせ、数十名の警官をやっつけて署内に入りこんでしまいました。警察側も動員したがどうにもならず、深夜二時ごろまでの交渉で、講師は夜が明けたら釈放する、犠牲者は出さない等の条件をかちとり、「伊勢崎署占領事件」として大きく報道されました。

⑥事件再発掘叙述・研究資料

5 藤田廣登『小林多喜二周辺研究 試論 I』（2008年11月）

6 長谷田直之「その時、多喜二は」（共産党伊勢崎市議団地域ニュース『公子のフレッシュ便』『北さんのフレッシュ便』）

⑦事件関係者関連資料（文献の紹介のみ）に以下の資料を追加します。

16 宣戦社『宣戦』（1930年8月）

17 群馬戦線社『群馬戦線』（1928年11月、12月）

18 一倉喜好「群馬県青年共産党事件」（『近代群馬の行政と思想・その二』、1985年）

19 一倉喜好「私等は死を賭しても、我が『群馬戦線』を守る！」（『近代群馬の行政と思想・その四』、1987年）

20 一倉喜好「単純ナ研究団体ニ過ギナイノデアリマス」（『近代群馬の行政と思想・その五』、1988年）

21 須永徹『未完の昭和史』（1986年）

22 菊池重作『茨城県農民運動史』（1980年）

23 柳河瀬精『告発戦後の特高官僚』（2005年）